

平成三十一年度 入学試験 (公募推薦) 問題 (国語)

一次の文章を読んで、後の問【1】～【5】に答えなさい。

マザーコンプレックス人間だと言われる。自分でも、その通りだと思う。去年が母の七回忌だったが、今でも母を思って、めそめそすることがある。

⑦、母はなぜ生きることにもっと執着してくれなかったのか。そそっかしい人だったから、ヨミの国のドアを台所のドアと間違えて開けてしまったのだろうと親戚一同は納得していたが、娘にしてみれば、そんな間違いをされては困るのである。孝行をしたい時に、母はいないのだ。

私は、昭和四十四年に、第一回新潮新人賞を受賞した。ほぼ同時に小説現代新人賞にも佳作入選し、入選作を全文発表してもらうなど、受賞作なみの待遇をもらった。文芸時評にも取り上げてもらったし、近頃の新人は純文学と大衆文学の区別をつけぬのかと書かれもした。

が、その後、平成元年に泉鏡花賞をいただくまで、二十年間も鳴かず「\*」の日がつづいた。正確に言えば、書いても書いても「残念ながら——」と原稿の返されてくる日がつづいていたのである。

当然、お金はなかった。なければ原稿用紙も買えないし、参考書を手に入れることもできない。

① 勤めることになるのだが、勤めると多少の収入は得られるかわり、原稿を書く時間は少なくなる。書くのは早い方ではないし、書き上げたあとも手直しをしなければ気がすまないで、日曜日はほとんど徹夜、目を赤く腫らして会社へ向かっていた。

当時は自分に心臓疾患があるなど夢にも思っていなかったが、それでも皮膚の感覚がなくなるほど疲れることもあった。それに思う存分書きたくもなあって、後先も考えずに会社を辞めたものだった。

が、失業保険のあるうちはいい。なにせ一年に一度か二度、月刊誌に短編をのせてもらえる程度で、たちまち原稿用紙代にも困る破目になる。ふたたび——いや、幾度も勤め先を探すことになるわけだが、次第に年をとってくるわ、特技はないわで、待遇はわるくなるばかりだった。

一方、友人達は結婚して子供を産み、幸せそうな母親の顔になっている。なかには結婚して離婚し、また結婚したという人もいた。

◎ 焦らなかつたと言えは嘘になる。それでも小説は諦めなかつた——と言いたいのだが、実は一度だけ、結婚をして平凡な主婦になろうと決心したことがある。四十を過ぎ、このままでは野垂死をしようと思つた時だった。年老いて収入の道もなく、いやな顔をされながら親戚を頼って歩く自分の姿が脳裡に浮かんできて、やりきれない気持になってしまったのである。

プロポーズに近い言葉を口にくれた男性をたずねて行き、今の言葉で言えば「できちゃった結婚」をしてやろうと考えたのだが、そうきめたたん、なぜか熱が出た。

熱で足どめされた私は、一晩中考えた。考えて考えて、結局、男性をたずねて行くのをやめた。小説をとつたと言えは聞えはいいし、事実、半分はそうなのだが、半分は母との暮らしをとつたのである。

私にとって母は、母親であると同時に、面倒をみてやらねばならぬ子供であり、戦友でもあった。母の夫——私の実父はビルマ(現在のミャンマー)で戦死、母と私は焼夷弾の下を逃げまわり、疎開し、戦後は母の内職で暮らしてきた。母の言葉通りに書けば、母は幼い私を頼りに夢中で生きていたのである。

その後、母は再婚し、弟と妹が生まれた。私は高校を卒業して就職するが、妹は誕生直後から入院を繰返し、六歳で他界した。弟も丈夫ではなかったから、その頃の母は、病院と家を往復していたようなものだった。

母が私とヒンパンに出かけるようになったのは、弟が高校生になり、私が新人賞を受賞した頃からである。行先は、デパートのバーゲンセール会場が多かった。

が、先にも書いた通り、その頃の私は、徹底してお金がなかった。今でも決して裕福ではないが、ブラウスの一枚くらいは買ってやれる。当時は、一見して安物とわかるものすら買ってやれなかった。

②、母は喜んでついてきた。私が財布を見て溜息をつくとき、いつも「今、欲しいものが買えなければ、

来月買えばいいじゃないの。その方が、いつでも先に楽しみがあつていいんだよ」と言って笑った。いい笑顔だった。その笑顔を見る楽しさを、野垂死におびえた「できちゃった結婚」とひきかえにはできない。第一、そんな結婚をしたならば、二言めには「うちの母なら」とか、「うちの母がここにいてくれたなら」などと言うだろう。相手の男性は、<sup>①</sup>ヘキエキするにちがいない。

どうにでもなりやがれ、野垂死でも何でもしてやる——と開き直った時から、私の小説は変わりはじめたような気がする。マザコンなりに、腰が据わったのだ。心残りは、バーゲンセールで私の気持を「捨鉢できちゃった結婚」から引き戻した母を、バーゲンセールではないところで買物をさせてやれなかったことである。

(北原亞以子『あの頃』)

【1】 二重傍線部①～④の漢字の正しい読みを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問1～4】

- |   |   |       |       |       |       |       |
|---|---|-------|-------|-------|-------|-------|
| 1 | A | ①た    | ②へ    | ③ぬ    | ④ず    | ⑤は    |
| 2 | B | ①のちさき | ②あとせん | ③のちせん | ④あとさき | ⑤こうせん |
| 3 | C | ①はま   | ②ゆず   | ③かじ   | ④あせ   | ⑤はや   |
| 4 | D | ①たしか  | ②おとし  | ③こらし  | ④あきら  | ⑤くるし  |

【2】 空欄ア～ウに該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問5～7】

- |   |   |       |       |       |       |       |
|---|---|-------|-------|-------|-------|-------|
| 5 | ア | ①ところで | ②そもそも | ③まったく | ④かねがね | ⑤だいいち |
| 6 | イ | ①そこで  | ②ここで  | ③やがて  | ④しかし  | ⑤ただし  |
| 7 | ウ | ①ところが | ②そのため | ③かならず | ④それでも | ⑤もちろん |

【3】 傍線部①～③の漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問8～10】

- |    |   |     |     |     |     |     |
|----|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| 8  | a | ①夜海 | ②余泉 | ③黄海 | ④余海 | ⑤黄泉 |
| 9  | b | ①頻半 | ②頻版 | ③頻藩 | ④頻繁 | ⑤頻班 |
| 10 | c | ①辟易 | ②癖易 | ③僻易 | ④壁易 | ⑤碧易 |

【4】 空欄\*に該当する語として正しいものを、①～⑤から選び、その番号を記入しなさい。

【解答欄は問11】

- |    |      |      |      |      |      |
|----|------|------|------|------|------|
| 11 | ①飛ばず | ②行かず | ③食わず | ④言わず | ⑤聞かず |
|----|------|------|------|------|------|

【5】 筆者はどうして、波線部のように感じたのか、その理由をととしてふさわしいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問12】

- |    |   |
|----|---|
| 12 | ①暮らしに少し余裕もできて、これからという時に、母が逝ってしまったので。        |
|    | ②母は、本当は孫の顔を見たかったのではないかと、ふと思うことがあるので。        |
|    | ③長くつらい毎日を乗り切ってこられたのは、やはり母の存在だったと、改めて気づいたので。 |
|    | ④母は人生に満足していたと思うが、一度はバーゲンでない所という、小さな悔いが残るので。 |
|    | ⑤これからはまず自分のために、という生き方を、母も許してくれると思うので。       |

二次の文章を読んで、後の問【6】～【10】に答えなさい。

現金引出しのキャッシュカードを上衣の内ポケットに入れて、銀行に出掛けた。地方に小説の資料調べの旅に出る予定を立て、懐中少々(a)ので十万円を引出そうと思って家を出たのである。

買った商品の支払いその他でカードが使われ、多くのカードを所持している人がいるときく。それは、現代生活を送る人の常識らしいが、カードと言えば、私はキャッシュカード以外に病院の診察券しかない。

銀行に行くと、カードを使うコーナーに長い列がつけられていた。通帳に預金の出し入れを記入したりする機器もあるが、私には無縁で、やり方を知らず、教えてもらうのも煩わしいので、私とそのコーナーに行くのは現金引き出しのためのみである。

多くの人がいるのに驚いたが、三つの銀行が合併したこと、その日が月末の月曜日なので\*ことを知った。私は、現金引き出し専用の機器の前にできた列の最後尾についた。

私は少しずつ前に進み、前には中年の女性のみになった。私は少し距離を(b)立っていたが、彼女は現金引出しを終えると、出た紙幣の枚数を(c)しらべている。考えてみれば当然のことで、機器を百パーセント信用するのは、むしろおかしいだろう。

そうは思いながらも、後ろに並んでいる人たちをどう思っているのか、いい加減にしてくれと思っているうちに、ようやく女性が機器からはなれ、私は引出し機の前に立った。

暗証番号を手早く押し、十のボタンについて確認のボタンを押した。すべての操作を終えた時、思いがけずチャリンという音がした。開いた空間に一枚の十円硬貨がある。一瞬頭が錯乱し、ようやく十の次に万のボタンを押さなかったことに気づいた。

私は、硬貨をつまんでポケットにおさめると、もう一度落着いて操作をし直し、一万円札十枚を手にした。だれにも気づかれなかった気配はなかったようだが、十円硬貨一枚を引出すためにキャッシュカードを使った私を見ていた人がいたら、どのように思うか。私は、恥しくなって(d)その場をはなれた。

ポケットに入っている十円硬貨に手をふれてみた。引出し機からは十円でも出ることに、あらためて驚きを感じた。機器の中には、紙幣以外に硬貨も積み上げられていて、その中の十円硬貨が一枚、私の前に出てきたのである。私は手にふれる十円硬貨に、引出し機を信用できる気持になった。

(吉村昭「銀行にて」)

【6】 空欄(e)に該当する語を、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問13 14】

13 (e) ①周到に ②執拗に ③丹念に ④入念に ⑤綿密に

14 (e) ①そうそうに ②こそこそと ③そそくさと ④まずは ⑤さしあたって

【7】 傍線部「少々」に続く空欄(a)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問15】

15 (a) ①寒々しい ②心細い ③おぼつかない ④弱々しい ⑤物寂しい

【8】 傍線部「距離を」に続く空欄(b)として正しいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問16】

16 (b) ①置いて ②用いて ③測って ④取って ⑤正して

【9】 空欄\*に該当する語として正しいものを、①～⑤から選び、その番号を記入しなさい。【解答欄は問17】

17 ①理解できる ②妥当である ③当然である ④無理もない ⑤言うまでもない

【10】 筆者はどうして、波線部のように感じたのか、その理由としてふさわしいものを、①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問18】

- 18
- ①さすがに機械であり、人間ではこのように正確にはいかないなど、感心したので。
  - ②思わぬ失敗から、ものごとの原点・基本という忘れがちなことを、再認識できたので。
  - ③小さなことから気づいた自分自身の注意力に、少し満足できたので。
  - ④慌ただしい毎日のなかで、たまには歩みを緩めて周りを見たらと、教えられた気がしたので。
  - ⑤身近の小さなことに、ますます慎重に臨まなければと、改めて確信したので。

三 次 の 問 【11】～【13】の文章中、カタカナで記された言葉の漢字として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【11】 「彼女の発言によって、会議のシオメが変わった。」【解答欄は問19】

- 19 ①塩女 ②塩芽 ③潮芽 ④潮雌 ⑤潮目

【12】 「この秘密が暴かれることはない、タカを括っていた。」【解答欄は問20】

- 20 ①鷹 ②貴 ③高 ④隆 ⑤孝

【13】 「気を付けていたのに、前回の試験の時と同じテツを踏んでしまった。」【解答欄は問21】

- 21 ①轍 ②鉄 ③哲 ④徹 ⑤綴

四次の間【14】～【18】の名前の人物や動物が登場する作品・作者名として、正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【14】「兵十」【解答欄は問22】

- ① 『風の又三郎』(宮沢賢治)
- ② 『杜子春』(芥川龍之介)
- ③ 『ごんぎつね』(新美南吉)
- ④ 『龍の子太郎』(松谷みよ子)
- ⑤ 『しろばんば』(井上靖)

【15】「ヒースクリフ」【解答欄は問23】

- ① 『白鯨』(ハーマン・メルヴィル)
- ② 『戦争と平和』(レフ・トルストイ)
- ③ 『最後の一片』(オー・ヘンリー)
- ④ 『ジェーン・エア』(シャーロット・ブロンテ)
- ⑤ 『嵐が丘』(エミリー・ブロンテ)

【16】「長峰重樹」【解答欄は問24】

- ① 『あこがれ』(川上未映子)
- ② 『さまよう刃』(東野圭吾)
- ③ 『さらさらひかる』(江國香織)
- ④ 『掏摸(スリ)』(中村文則)
- ⑤ 『八日目の蝉』(角田光代)

【17】「駒子」【解答欄は問25】

- ① 『雪国』(川端康成)
- ② 『痴人の愛』(谷崎潤一郎)
- ③ 『こころ』(夏目漱石)
- ④ 『秀吉と利休』(野上彌生子)
- ⑤ 『舞姫』(森鷗外)

【18】「山内桜良」【解答欄は問26】

- ① 『君の臍臓をたべたい』(住野よる)
- ② 『麻酔』(渡辺淳一)
- ③ 『神様のカルテ』(夏川草介)
- ④ 『海と毒薬』(遠藤周作)
- ⑤ 『チーム・バチスタの栄光』(海堂尊)

26

五次の間【19】～【23】の四字熟語の表記として正しいものを、それぞれ①～⑤から選び、その番号をマークしなさい。

【19】 【解答欄は問【27】】

- ① 「杓子情義」
- ② 「杓子定規」
- ③ 「杓子定偽」
- ④ 「杓子定義」
- ⑤ 「杓子情宜」

【20】 【解答欄は問【28】】

- ① 「曖昧裳糊」
- ② 「曖昧藻糊」
- ③ 「曖昧模糊」
- ④ 「曖昧喪糊」
- ⑤ 「曖昧茂糊」

【21】 【解答欄は問【29】】

- ① 「辛抱遠慮」
- ② 「信望遠慮」
- ③ 「心棒遠慮」
- ④ 「深謀遠慮」
- ⑤ 「心房遠慮」

【22】 【解答欄は問【30】】

- ① 「醇風満帆」
- ② 「純風満帆」
- ③ 「準風満帆」
- ④ 「順風満帆」
- ⑤ 「巡風満帆」

【23】 【解答欄は問【31】】

- ① 「乾坤一擲」
- ② 「乾坤一滴」
- ③ 「乾坤一適」
- ④ 「乾坤一的」
- ⑤ 「乾坤一敵」